

# WCRP

World Conference of Religions for Peace Japan

9  
2023  
September  
No. 527



戸松義晴理事長の「慰霊のことば」を代読する三鍋裕監事（第51回原爆殉難者慰霊祭／長崎カトリックセンター）

こころの扉——「同事行」来馬宗憲 .....	2
広島・長崎平和関連行事への参加 .....	3
共催講座「核時代における非戦」第1回 .....	4
トルコ・シリア地震支援活動レポート .....	5
子どもへの暴力防止に向けたユニセフとの合同事業 .....	6
ACRP各国事務総長会議を開催 .....	7
女性部会 難民受け入れに関する部会内学習会を開催 .....	7
新役員紹介 .....	8
今月のWCRP新熟語、WCRPの活動 .....	8



## 「同事行」

WCRP日本委員  
理事 曹 洞 宗 宗 議 会 議 員

来馬宗憲



このたび「WCRP」の理事を拝命することになりました。来馬宗憲と申します。

日本では夏のお盆が過ぎますと、九月にはお彼岸の季節がやってまいります。どちらもお先祖様を供養する年中行事ですが、お中日を中心としたお彼岸の一週間は、お墓参りをして故人を偲ぶだけでなく、善行に努め、自分自身を整える修行期間ともされています。

自己を整えるための実践修行として、曹洞宗の経典『修

』とです。どちらが上とか下とか優劣を争ったりせずに、相手のことを我がことと同じに考え、思いやることが大切であるという御教えです。それぞれの教えや伝統も異なる様々な宗教者が集まり、人々の幸せと世界平和を願う「世界宗教者平和会議（WCRP）」の理事就任にあたり、まさしくこの「同事行」の実践が必要であると感じました。

近年のロシアによるウクライナ侵攻をはじめ、世界各地で止むことのない紛争についても、相手の立場を我がことのように考えられずに行動してしまつた結果のように思えてなりません。人の命を奪い、自然を破壊し、エネルギーを浪費する戦争とは何と愚かな行為でしょうか。それは人間に対してだけでなく、他の動植物、すべての生き物に対しても同じです。近年の異常気象、絶滅危惧種の増加、環境破壊など、他をかえりみない、とどまることを知らない人間の欲望によって地球全体が脅かされています。

「WCRP」は、世界の人々が民族・伝統・宗教・考え方などの違いを認め合い、尊重しながら、平和に人間らしく生きていける社会を目指しています。そのためには、他の生物やすべての生命あるものへの思いやり、慈悲心を持つことが必要であり、それが「同事行」であります。

この「同事」の心を互いに持ち、その輪が広がれば、世界平和を目指すことができ、地球の環境破壊の歯止めになるのではないかと考える次第です。

証義』の中に「四摂法（しししょうぼう）」という教えがあります。これは「布施」「愛語」「利行」「同事」という、人が行うべき四つの行為（菩薩行）のことです。曹洞宗において「WCRP」の理事を拝命するにあたり、曹洞宗において昨年より指標とさせていただいている「同事」について少し触れさせていただきたいと思っています。

「同事」とは同じこと、違わないこと、自分自身が他人と同じ立場にたつて考え行動し、同じ目線で付き合うこ

## 広島・長崎平和関連行事への参加

■広島

広島市の原爆供養塔において、8月6日



原爆死没者慰霊行事

午前6時15分から広島戦災供養会主催による「原爆死没者慰霊行事」が開催され、日本委員会からストップ！核依存タスクフォース運営委員の三宅善信理事（金光教春日丘教会長）、篠原祥哲事務局長が出席し、慰霊の焼香を捧げた。

続いて、午前8時より平和記念公園原爆



広島市原爆死没者慰霊式並びに平和祈念式会場

死没者慰霊碑前で、78回目となる広島市主催の「広島市原爆死没者慰霊式並びに平和祈念式」が開催された。両者は同式典にも参加し、慰霊の黙とうを捧げた。

■長崎

8月7日には、長崎県宗教者懇話会主催の「宗教者による世界平和を願う対話交流の集い」に日本委員会から三鍋裕監事（日本聖公会主教）、ストップ！核依存タスクフォースメンバーの中西正史活動委員（寒川神社権禰宜）が出席した。



集いにおいて挨拶する三鍋監事



長崎県宗教者懇話会役員と来賓参加者ら

集いの中で三鍋監事は、自身が経験したアメリカ人との交流体験を紹介。これからは加害者にも被害者にもならない世界を築いていこうと固く誓いあったと話し、「ここに集った皆さまと共にそのような世界を築きたい」と力強く述べ、会場は大きな拍手に包まれた。

8日は、長崎原爆資料館および原爆死没者追悼平和祈念館を見学。原爆死没者の氏名を登載した名簿が納められている「追悼空間」で祈りを捧げた。その後、「第51回原



追悼空間での祈り（原爆死没者追悼平和祈念館）

るが、今年は台風6号の影響で会場を変更。約350人が参列した。同慰霊祭では、戸松義晴理事長の「慰霊のことば」を三鍋監事が代読した。（次ページに全文掲載）

中西活動委員は、「慰霊行事では、米国や様々な宗派の方々との対話交流を通じ、身近な相互理解の積み重ねが平和へと繋がっていくことを学びました。原爆資料館や平和祈念館を見学し街を歩きながら、尊い命



第51回原爆殉難者慰霊祭

や生活のすべてを一瞬で奪われた無辜（むこ）の方々の無念さを改めて痛感し、慰霊祭で平和への願いを込め献花しました」と感想を述べた。



## 慰霊のことば

78年前の8月9日午前11時2分。ここ長崎に落とされた原子爆弾により、数えきれない多くの方々が犠牲となりました。第51回原爆殉難者慰霊祭にあたり、原爆犠牲者の御霊に謹んで哀悼の誠を捧げます。

そして、今なお、心身に深い傷を負い、苦しみの中で生活をされている被爆者の方々、ご遺族の皆さまに心からお見舞い申し上げます。

私たちは、絶望的な悲劇に見舞われた長崎の人々の苦しみ、悲しみを決して忘れてはなりません。原子爆弾は、人類が開発した最も強力で残酷な兵器であり、私たちは、一刻も早くこのような大惨事をもたらす核兵器を廃絶しなければなりません。

そのためには、心身に深い傷を負いながら「再び被爆者をつくらない」、「長崎を最後の被爆地に」という信念で、人道主義にもとづいた核兵器廃絶を訴え続けておられる被爆者の方々の声に真摯に耳を傾け、彼らの意志をしっかりと引き継ぐことが大切です。

現在、ロシアによるウクライナ侵攻によって核兵器使用のリスクが非常に高まって

おります。今こそ、私たちは、核兵器使用が全人類、全生態系の壊滅をまねくという危機感を強く示し、いかなる場合であっても核兵器使用は絶対に許されないというメッセージを繰り返し発信する必要があります。そして、何よりも12000発以上の核弾頭が地球上に存在していること自体が問題です。

私たち世界宗教者平和会議は、この危機的な現状を回避するために、世界の宗教者に呼びかけ、思いを同じくする人々と共に連帯し、早急に核兵器廃絶が実現できるように粘り強く対話と実践を重ねてまいります。

本日、私たちは信仰を持つ者としてここ爆心地公園に集いました。改めて、犠牲者の無念の思いに心を寄せ、そして、現在も後遺症などの苦難の中にいる人々に、真心からの祈りを捧げたいと思います。

そして、長崎原爆殉難者の御霊に、私たち自身の平和への誓いを、改めてお誓い申し上げます。

2023年8月8日

(公財)世界宗教者平和会議日本委員会

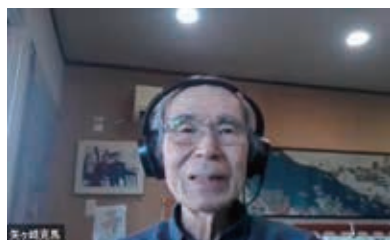
理事長 戸松義晴

## 共催講座「核時代における非戦」第1回

WCRP日本委員会と日本パグウォッシュ会議、明治学院大学国際平和研究所が共催する公開連続講座「核時代における非戦」の今年度第1回講座が8月28日、オンラインで開催され、74人が参加・視聴した。

テーマは『劣化ウラン弾はなぜ使われてはならないのか…その仕組みと非人道性を知る』。はじめに、WCRP日本委員会を代表し、ストップ！核依存タスクフォースの中村憲一郎責任者が挨拶を行った。

基調講演は、琉球大学名誉教授の矢ヶ崎克馬氏が務めた。矢ヶ崎氏は、物理学者の立場から、劣化ウラン弾の構造やそれらがもたらす非人道的な惨劇を説明。さらに、核兵器やウラン弾を用いた戦争をめぐる国際社会の現状に対し、国家主権と人間存在の安全保障との関



劣化ウラン弾の非人道性について語る矢ヶ崎氏

の安全保障との関わりを構造的に見なければならぬと見解を述べた。

※この講座の動画は、日本パグウォッシュ会議のホームページで視聴できます。

## トルコ・シリア地震支援活動レポート

WCRP日本委員会が支援を行った現地  
の団体より活動レポートが寄せられた。

## ■ 難民を助ける会 (AAR Japan)

今年2月6日にトルコで発生した地震では、隣国シリアと合わせて5万7000人以上が亡くなり、全壊建物29万8000棟、被災者数910万人に上る甚大な被害が発生しました。トルコ国内だけで今なお約240万人が居住用コンテナやテントで過酷な避難生活が続いています。

AAR Japan「難民を助ける会」は震災直後より緊急支援を開始し、南東部のカフラマンマラシユ県、アドゥヤマン県、ガジアンテプ県、シャンルウルファ県で食料や衛生用品、毛布、衣類などを届けています。

シャンルウルファ市で、被災者のテントに衛生用品（液体石けん、歯磨き、ウェットティッシュ）と生理用品、おむつ、調理済み食品セット（オリーブ、チーズ、ジャム、チョコレートクリーム）をお届けしました（2023年2月／写真①）

アドゥヤマン県ゴルバシ村で、被災世帯に小麦粉や油、野菜などの食料、石けんや

洗剤、タオルなどの衛生用品をお届けしました（2023年6月／写真②）

写真①



写真②



また、被災者が暮らすテントへの雨水や虫の侵入を防ぐため、床に「すのこ」やマットを敷く、住環境の改善支援などを実施し、7月中旬までに延べ6万2400人に支援を届けました。

4月に支援物資を届けた8人家族の主婦ラヒメさんは、自宅は地震で倒壊し、庭先に建てた粗末なテントで暮らしていました。「地震が起きた頃は夜間とても冷え込み、家を失ったショックもあって、心身ともに追い詰められた感じでした。食料も毛布もなく途方に暮れていた時、AARの支援が届いて本当に安心しました」と話します。

アドゥヤマン県内の集落で避難生活を送るシリア難民のヘイルさんは、夫と3人の子どもとテント暮らしを続けています。「雨

が降るとテントの中に雨水や泥が入ってくるので、とても困っていました。暖かくなってからは虫がたくさん入ってきて、汚くて不快でした。AARの支援に本当に感謝しています」と話してくれました。



テントの中にパレットを敷く作業  
(2023年5月)

地震発生から半年の8月、政府によって設置・運営される「公式サイト（避難所）」に80万人、公園や倒壊した自宅の近くで、数世帯から数十世帯が寄り集まってできた「非公式サイト」には160万人が生活しているとされます。公式サイトは整備された敷地にコンテナが規則正しく並び、電気や上下水道が通っているほか、支援も届いています。非公式サイトは、住環境整備や食料や衛生用品などの支援は不十分です。AARはより困難な状況に置かれた非公式サイトで暮らす人々を中心に支援活動に取り組んでいるほか、物資配付に留まらず、被災者の自立をサポートする中長期的な支援を模索しています。

## 子どもへの暴力防止に向けた ユニセフとの合同事業

WCRPとACRP（アジア宗教者平和会議）は、2018年よりユニセフと連携し、アジアの貧困国において子ども、女性、家族への暴力を防止するための事業を展開している。この事業は「子ども、家族、コミュニティのための宗教と前向きな行動変容（FPPC）」と呼ばれ、現在、ACRPとしてインド、パキスタン、ネパール、スリランカ、バングラデシュの5カ国で実施している。



8月13日から15日に5カ国の宗教者がスリランカに集い、具体的にこの事業を進めるためのワークショップが開かれた。これまでそれぞれ

フェイスブックなどのSNSを活用した啓発活動、被害状況把握のための調査などを行ってきた。

会合では、子どもの病死をいかに防止するか、そのための宗教者の役割について議論がなされた。ユニセフ担当者の発表によれば、南アジアでは5歳以下の子どもの死亡者数は、飛行機事故に例えるならば、毎年14機が墜落し命を落としている数に相当するという。その主な原因は病死であり、必要とされるワクチンを接種できないため予防が十分になされていない。その状況を改善するために宗教者ができることについて話し合われた。

ワクチンの接種を促すために、宗教がもつ人的、財的、道徳的、倫理的に多様な資源をいかに活用するかについて語り合った。その中で、宗教者は多くの貢献が可能であると認識しつつも、同時に、宗教者が誤ったワクチンに対する理解をすること、ワクチン接種の障害となっている危険性があることも指摘された。

また会合では、思春期の女性に焦点を当て、その権利の保護についても話し合われた。この中でとくに、この年代の女性は十



分に人権が守られていない現状があることが共有された。その解決のために、出席した各国代表者から様々な具体的な行動案が提案された。

それは、宗教間や宗教と政府、NGO、学校などの共通行動のためのプラットフォームの必要性や、様々な人権保護に関するサービス提供のための宗教コミュニティの活用、保護に関する専門的な宗教者の育成のためのトレーニング、女性の宗教指導者の積極的な社会参加の増大などである。

会議に出席した篠原祥哲ACRP事務総長は講演の中で、「この事業は、宗教者が単なる言葉だけではなく、具体的に自らが持つあらゆる資源を動員して、子どもへの暴力防止に取り組むための事業である。これらの事業こそがACRPがめざす行動の最良のモデルである」と語り、今後この事業を南アジアだけでなく、アジア全域に広げていきたいと締めくくった。



## ACRRP各国事務総長会議を開催

アジア宗教者平和会議（ACRRP）は、7月27日に各国事務総長会議をオンラインで開催した。ACRRPでは各国委員会の現状と課題を共有し、より行動指向のACRRPネットワークをめざすために、3カ月に1度の頻度で、各国事務総長会議を開催している。ACRRP議長、ACRRP各国事務総長の他に、青年ネットワーク、女性ネットワークの代表も参加するこの会議では、単に各国委員会の活動紹介をするのではなく、どのようなテーマで、どのような活動を行い、どのような成果があったか、また課題が存在しているかなどを共有している。今回の会合では主に、ネパール委員会、フィリピン委員会がユニセフと協働する事業の取り組みや、青年ネットワークメンバーが5月に来日し広島や京都を訪問したことを受けての今後の展開、女性ネットワークの人身取引や気候変動プロジェクトの進捗などが共有された。

## 女性部会 難民受け入れに関する部会内学習会を開催

女性部会は7月20日、難民受け入れに関する女性部会内学習会を開催した。女性

部会は本年、「Action with All Beings」日本に避難を余儀なくされた女性の声なき声に寄り添う」をテーマに活動を進めている。日本に避難する難民への具体的な支援を検討する上で、まずは世界と日本の難民受け入れの現状と課題を理解するために、NPO法人難民支援協会支援事業部マネージャーの新島彩子氏を講師に部会内学習会を開催、9人の女性委員が参加した。

まず、新島氏は日本での現在の難民申請の状況について説明。新型コロナウイルス感染症が流行して以降、日本政府の水際対策によって海外からの入国者数が減少し、日本での難民申請者の数も減少していた

が、水際対策が緩和されて以降、難民申請を希望する人がコロナ禍前よりも急増している。難民支援協会では、難民申請希望者の面談や相談に応じているが、相談件数が非常に増え、面談が追い付いていない状況であることを説明した。また、難民支援協会に相談に駆け込む人の



寝泊まりしてもらおうケースもあると述べた。また、最近では単身女性やひとり親家庭の相談件数も増えているという。

参加者から、日本の宗教団体が難民受け入れに関してどのような支援が可能かとの質問に対して新島氏は、イエメンからの母子受け入れの事例を紹介。住居を支援した際、モスクに行きたいとの要望を聞いて、近くにあるモスクを紹介した。モスクに通うようになってからは、日本の土地で初めて心の平安を得て、精神的に落ち着いて生活できるようになった経緯を説明し、難民にとっても自身が信仰する宗教の存在は非常に大切であり、宗教団体はそうした難民を支援することができると述べた。



## 新役員紹介

新たに就任したWCRP日本委員会の新役員を紹介する。

## 理事

久田哲也（神宮司廳総務部長）



久田理事

1967年生まれ。89年皇學館大學文学部神道学科を卒業後、神宮司廳に奉職。97年神宮宮

掌、2009年神宮権禰宜、17年神宮参事、秘書室長（人事厚生室長兼務）、19年神宮禰宜、20年秘書室長、21年財務部長（総合企画室長兼務）を歴任し、23年4月総務部長に就任。

来馬宗憲（曹洞宗宗議會議員・江岸寺住職）



来馬理事

1966年、東京都生まれ。90年駒澤大学仏教学部を卒業後、福井県大本山永平寺にて

安居修行に入る。95年7月清巖寺（東京、現在まで）住職就任。2010年10月曹洞宗宗議會議員に就任（4期目現在まで）。16年学校法人駒沢学園理事（現在まで）、17年9月江岸寺住職（東京、現在まで）、18年愛知学院大学監事、20年東京グランドホテル（曹洞宗檀信徒会館）事業部長に就任し現在に至る。

## 今月のWCRP新熟語

WCRP事務局が日常の中で感じたことを漢字2文字で表し新しい熟語を作ります。

## 旅知（たびち）

8月は慰霊の旅をしながら、原爆のこと、平和のこと、一緒に足を運んだ先生方のことを色々学び、知ることができました。

## WCRPの活動

## 《9月》

9日 災害対応タスクフォースオンライン学習会／第2回会合（東京・普門メディアセンター／オンライン併用）

13日 第45回理事会（神戸・ムスリムモスク／オンライン併用）

19日 平和研究所第5回所員会議・研究会（東京・普門メディアセンター／オンライン併用）

22日 気候危機タスクフォース「いのちの森プロジェクト」森の整備（埼玉・所沢）

## 《10月》

6日 和解の教育タスクフォース第2回会合

9日 女性部会いのちに関する学習会（オンライン）

10日 平和研究所第6回所員会議・研究会（東京・普門メディアセンター／オンライン併用）

26日 人身取引防止タスクフォース第2回会合

掲載内容の無断転載を禁ず。